亀山城の御城印

山家三方衆の奥平氏の居城

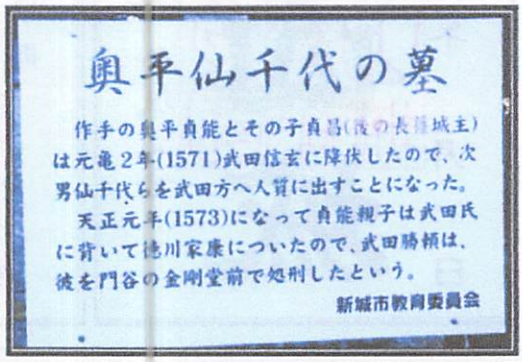
亀山城

所在地／愛知県新城市作手清岳字城山
時　期／応永～天正年間
　　慶長 7 年(1602)～15 年(1610)
城　主／奥平貞俊～貞能、松平忠明
概　要／応永 31 年(1424)に奥平貞俊が築城したもので、以降 5 代にわたって山家三方衆の奥平氏の居城となったとされている。慶長 7 年(1602)から 8 年間、松平忠明を城主として迎え、作手藩 17,000 石の中核として栄えた。主な遺構として曲輪や土塁、空堀、虎口などがある。

・作手古城まつりは、奥平氏の居城亀山城址と隣接する【つくで手作り村】を会場として、5月の日曜日に開催されるまつりです。長篠設楽原鉄砲隊の火縄銃演武や、地元中学生の太鼓演奏などが行われ、さわやかな初夏の気候に合った風雅を楽しむ事が出来ます。

【山家三方衆の作手奥平氏】

・奥平氏は戦国乱世を、風にそよぐ葦の如く従属先を変えながら生き抜いてきた。時には一族が敵味方に別れ戦い、又、【人質処刑】という大きな犠牲を払いながら、明治の初めまで歴史を刻んでいる。



・天正元年(1573)8月、奥平貞能は家康への内通を疑う武田方を欺き密かに、作手亀山城より額田の滝山城へ動いた。徳川家康に再度従う事になった。元亀4年8月21日付けで、奥平貞能、貞昌親子は、徳川家康から【起請文】を与えられ本領を安堵された。武田方も、奥平親子の去就を心配して、亀山城の近くの【古宮城】に甘利晴吉を置いて監視していた。亀山城退去に気づいた甘利は、石堂ヶ根で戦いとなり、奥平方が甘利方の首数十を取っている。滝山城の戦い、田原坂の戦いを経て、武田方からの独立を勝ち取っている。奥平氏の離反を怒った武田勝頼により、作手【古宮城】に人質として差し出していた、貞昌の弟仙丸(14歳)、許嫁於ふう(16歳)虎之介(16歳)など人質に取られていた者は、鳳来寺表参道の金剛堂前で人質の定めとして処刑されてしまった。
天正元年(1573)9月21日の事である。

【額田宮崎の滝山城の空堀趾】

【久保城の密談】

・久保城は、岡崎市石原町にあり、三河奥平氏が作手から勢力を広げ、宮崎地区を領した時に拠点とした城です。元亀元年【1570】に奥平諸将は、久保城に集まり一族の存続を図る為、武田氏方、徳川氏方に付くことを密談しました。これを【久保城の密談】として伝わります。奥平貞能、貞昌親子は武田氏から徳川氏に帰属します。

・城跡は、【高木製作所研修所】になっています。模擬櫓と説明版があります。久保城の規模は、東西約110㍍、南北150㍍です。

・久保城（別名宮崎城）へは、亀山城址から鬼久保を通過し、長い下り坂をくらがり渓谷に降りて、宮崎小学校前の男川を挟んだ高台にあります。ここは、亀山城の支城として、岡崎城へと続く街道（県道7号線）を見張る位置にあります。おそらく鳥居強右衛門も、長篠の役で、岡崎城への伝令の使者としてこの道を駆け抜けたと思われます。亀山城から、奥平貞能と貞昌親子が、武田軍の疑惑を振り切り、一族郎党脱出した先が支城の【久保城】だと云われています。父奥平貞能は、岡崎城で、長篠城からの使者に、家康と共に面会した記録がありますが（天正3年5月人質？として岡崎城に居た）、息子の奥平貞昌が長篠城主（天正元年2月）に家康から任命される間は、久保城で時代の流れを見極めていたと思われます。天正18年、城主の関東移封に伴い久保城は廃城となった。

鳥居強右衛門勝商➡ 竹広峯田直明作

長篠城を救った武士の鑑

奥三河山家三方衆

久保城の城主の末裔？の梅村篤志氏が、宮ザキ園（和紅茶とかき氷）を営んでいます

【作手　文殊山城】　復元物見台

・戦国時代中期の作手は甲斐の武田氏と、三河の徳川氏の勢力のしのぎあいのエリアであった。武田信玄に取り作手は京都への西上作戦の通過地点の意味合いを持つ重要な地点でした。亀山城（奥平・徳川氏）と、古宮城（武田氏）の各々の支城が作手の狭い場所地に点在していた。
作手は、奥平氏と武田氏との、戦国の駆け引きのドラマが幾多にも繰り広げられた場所です。
NHKの大河ドラマに推薦できる戦国ストーリーが数多くあります。
『亀山城と奥平貞昌』
文殊山城内に祀られている【文殊菩薩】

作手にある山城の数々【山家三方衆】と武田氏のお城

【古宮城】武田信玄が重臣の馬場信房に命じ、元亀2年（1571）に奥平氏の亀山城監視の為に築城した、武田氏の最新の術の粋を凝らしたお城です。長篠・設楽原の戦い後廃城となりましたが、今でも当時の遺構を見ることができ、続100名城にも推薦され、多くの山城ファンが日本各地より訪れます。

【川尻城】奥平氏が、群馬から作手に入り最初に築城したお城です。後に亀山城に移りそこを本拠地としました。

【亀山城】応永31年（1424）奥平貞俊が築城、奥平氏5代が居城としました。元亀年間には武田氏側に属していましたが、離反し徳川氏に着きました。そして長篠城の戦いへと移ります。

【文殊山城】長篠・設楽原の戦いの2年前【元亀年間1570～73】に、武田氏との和睦の証として造られたお城です。作手の見晴らしの良い位置に築城したお城で別名を【一夜城】とも云います。遠く本宮山方面と作手盆地を見下ろす事が出来ます。

【宇津木城】奥平氏が、赤羽根・見代・和田に至る山道を監視するために築いたとも考えられる出城です。住所作手大字保永字打木

【和田城】和田の南の丘陵に城跡があります。天文6年（1537）に築城されたと伝えられています。天正元年（1573）に奥平氏が武田を離れ、徳川家康についたため、合戦の舞台となりました。

【塞之神城】　米福長者とも武田軍が築城したとも伝わるお城。作手山城の中でも年代的には古く、古宮城を見下ろす位置に在りました。

【石橋館】つくで手作り村の道の駅近くの【慈昌院】が、石橋館の跡です。奥平氏の長篠城の戦い後の輝かしい歴史の陰には、謀反で42名が亡くなると云う一族の惨劇が石橋館でありました。

作手の山城を訪ねるには、作手歴史民俗資料館で情報をキャッチしてから

❸古宮城の解説 住所　新城市作手清岳字宮山地内

城の説明	見どころ:話どころ	聞きどころ
場所　作手高原の中央	日本100名城のNO，150番	スタンプは作手歴史資料館
丘陵内に白鳥神社が鎮座	白鳥神社の狛犬はオオカミ	作手高原の分水嶺地
標高535㍍	城の3方は泥炭層の湿地	
古宮城　遠望	白鳥神社裏古宮城の入り口	

対峙

・古宮城は、作手高原の奥平氏の亀山城を過ぎた右側の小高い鎮守の森の中です。ここは白鳥神社の領域で個人の所有地です。元亀3年(1572)に、奥平氏の【監視】の為に武田信玄の重臣馬場信房が、甲州流の縄張りで、武田と三河の最前線に、最新の武田軍の基地として築いた城です。亀山城の目の前の位置に亀山城をにらみつけるように造られました。武田氏の粋を極めた遺構跡を見る事が出来ます。

・横堀と堅掘。そして土塁が複雑に組み合わされた縄張りは、コンパクトながら周辺でも例を見ない巧妙なものです。築城から2年後に織田・徳川軍により自焼しましたが、武田家が最後に築いた名城の面影を今に残しています。巨大迷路のような縄張りですのでグループで行くことをお勧め致します。武田信玄も勝頼も、この古宮城に滞在した事を想うと、戦国のロマンですね。

・【長篠・設楽原の戦い(1573)】で、武田勝頼が敗北することで、古宮城は、次第に武田氏の拠点城郭としての性格が失われて行ったと考えられる。

・**【古宮城の戦い】**元亀4年(1573)に武田信玄が亡くなると、奥平氏は武田方から徳川家康に寝返った。天正元年奥平親子が亀山城を退去して、滝山城に入ると武田軍はそこに押寄せた。手薄になった古宮城に奥平氏の援軍として駆け付けた徳川家康軍の攻撃を受けて、城は焼き払われ武田軍は敗走した。